

武蔵台調査 令和5年4月12日

参加者 石川 上野 後藤 佐川 野口 三宅 森田 山田

*凡 例：b=蕾 fl=開花 fr=結実 s=ソーラス (む)=むかご アンダーライン=指定植物

草本 37種

科名	令和4年月日	令和5年月日
センリョウ科	フタリシズカ fl	フタリシズカ fl
ウマノスズクサ科	タマノカンアオイ fl	タマノカンアオイ fl カンアオイ fl
サトイモ科	ムサシアブミ fl	ムサシアブミ fl ウラシマソウ fl
イヌサフラン科	ホウチャクソウ b fl	ホウチャクソウ b fl
ラン科	キンラン b fl シュンラン fl	キンラン b fl シュンラン fl
アヤメ科	シャガ b fl	シャガ b fl
ヒガンバナ科	ハナニラ fl	ハナニラ fl
ツユクサ科	ヤブミョウガ fr	
カヤツリグサ科	ナキリスゲ fl ヒメカンスゲ fr	ナキリスゲ fl ヒメカンスゲ fr
イネ科	オオイチゴツナギ fl カモガヤ fl ミゾイチゴツナギ fr メリケンカルカヤ fr	
ケシ科	ムラサキケマン fl fr	ムラサキケマン fl fr
メギ科	キバナイカリソウ fl	
キンポウゲ科	セリバヒエンソウ fl センニンソウ fr ニリンソウ fl	セリバヒエンソウ b fl センニンソウ fr ニリンソウ fl
マメ科	ヌスビトハギ fr	ヌスビトハギ fr
バラ科	キジムシロ b fl ミツバツチグリ fl	ミツバツチグリ fl
カタバミ科	カタバミ fl	カタバミ fl イモカタバミ fl
スマレ科	アメリカスマレサイシン fl タチツボスマレ b fl	アメリカスマレサイシン b fl タチツボスマレ b fl
アブラナ科	ショカツサイ fl	ショカツサイ fl
ナデシコ科	ミドリハコベ fl	ミドリハコベ fl
アカネ科	ヤエムグラ b fl fr	ヤエムグラ b fl fr
ムラサキ科	キュウリグサ b fl	キュウリグサ b fl
オオバコ科	オオバコ fl ムシクサ b fl fr	オオバコ fl
シソ科	キランソウ fl	キランソウ fl タツンミソウ (紫) fl ジュウニヒトエ fl
キク科	アイノコセイヨウタンポポ fl fr セイヨウタンポポ b fl fr オニタビラコ b fl fr コオニタビラコ b fl fr ハルジオン b fl	セイヨウタンポポ b fl fr オニタビラコ b fl fr コオニタビラコ b fl fr ハルジオン b fl ハルノノゲシ b fl fr
セリ科	ヤブジラミ fl fr ヤブニンジン fl fr	ヤブジラミ fl fr ヤブニンジン fl fr

シダ類 1種

科名	令和4年月日	令和5年月日
オシダ科	オクマワラビ s ベニシダ s	ベニシダ s

木本類 24種

科名	令和4年月日	令和5年月
マツ科	アカマツ fl	アカマツ fl
ヒノキ科	スギ fl	スギ fl
モクレン科	コブシ fr	コブシ fr
サルトリイバラ科	サルトリイバラ fl	サルトリイバラ fl
アケビ科	アケビ b fl	(開花未確認)
メギ科	ヒイラギナンテン fr	ヒイラギナンテン fr
バラ科	クサイチゴ b fl fr コゴメウユギ b シロヤマブキ fl モミジイチゴ fl	クサイチゴ b コゴメウユギ b シロヤマブキ fl カマツカ fl
アサ科	エノキ fl	
クワ科	ヒメコウゾ b	
ブナ科	クヌギ fl コナラ fl	クヌギ fl コナラ fl 花は僅かに残っている程度果実にはなっていない
カバノキ科	イヌシデ b クマシデ fr	イヌシデ花は散っていた。クマシデ未確認 イヌシデと同じと思われる
ニシキギ科	マユミ b	マユミ b
ムクロジ科	イロハカエエ fl	イロハモミジ fl
セッコク科	ヒサカキ b	ヒサカキ b
サクラソウ科	マンリョウ fr	マンリョウ fr
ツバキ科	シロバナヤブツバキ fl ヤブツバキ fr	シロバナヤブツバキ fl ヤブツバキ fl fr
ツツジ科	アセビ fl サツキ b fl	アセビ fl サツキ b fl
アオキ科	アオキ fl	アオキ fl
シソ科	ムラサキシキブ fr	
レンプクソウ科	ガマズミ b fl	
スイカズラ科	ウグイスカグラ b fl	ウグイスカグラ b fl
ハイノキ科		サアフタギ fl

特記事項

今回の調査から

1 キンラン

群生している場所以外の随所で 1~2 株が随所見られた。昨今の整備の結果と思われる。雑草に隠れていたものが見られるようになったのか？

2 ホウチャクソウ

キンランと同様、数は少ないが随所で見られた。

3 ジュニヒトエ

約 10 年振りに再発見。

定例の観察コースでも、新たに発見されることがあり、3 年に 1 回ぐらい春、秋に公園全体の調査を行う価値はあると思われる。

その調査結果を基に計画的な整備を行なうことが動植物の多様性が維持されることが考えられる。